

2024年 7月

置かれた場所で咲きなさい

渡辺和子

本の書き出しはあえて衝撃的にしているものが多いと思います。この本も「修道者であっても、キレそうになる日もあれば、眠れない夜もあります。そんな時に、自分をなだめ、落ち着かせ、少しでも心を穏やかにする術を、いつしか習いました。」との書き出しです。

生きてるとさまざまなことが起こります。自分の思っていることと違うこともよくあります。「どうして自分はこんなことをしなければならないの」、そう思うこともあるでしょう。Bloom where God has planted you.(神が植えたところで咲きなさい)

「咲くということは、仕方がないと諦めるのではなく、笑顔で生き、周囲の人々も幸せにすることなのです」との詩が続きます。けっしていいことばかりが起こるわけではありません。本書をヒントにくよくよせず前向きに考えることができるかもしれません。

本書の内容もさることながら、著者の父親が陸軍中將として旭川第七師団の師団長をしていてそのときに著者が生まれたことや、父親が昭和の大クーデター、2・26事件で著者の目の前で銃撃されたことなど、北海道にも関係することや大きな事件に遭遇していたことなど、興味深いこともありました。すでに読まれていらっしゃる方も多いと思いますが、何度読み返しても味わえる本ではないでしょうか

